

平成29年度 中部森林管理局国有林野等所在市町村長有志協議会連絡協議会 意見交換の概要

開催日時：平成29年11月21日（火） 13:20～15:45

開催場所：長野県松本市内

出席者：富山県南砺市副市長、長野県飯綱町長、安曇野市農林部長、上田市農林部長、伊那市長、上松町長、岐阜県高山市副市長、下呂市副市長、中津川市農林部長、愛知県設楽町長、以上10地区代表ほか8名出席

発言要旨	回答
<p><b>1 公益重視の管理経営の一層の推進について</b></p> <p>① 効果的、効率的な治山対策の推進について、この先、スリットダムの効果的な配置等、効果的な治山対策を行っていただきたい。</p>	<p>① 流木災害については、どこの地域においても起こりうる状況となっています。また、森林資源が豊かになり、今まで以上に流れ出る体積が増えています。林野庁としては国土交通省と連携して、改めて危険箇所の精査を行う調査を開始しています。その結果をふまえ、関係市町村に情報を共有しながら効果的な対策を進めていく考えです。</p>
<p><b>2 森林・林業の再生に向けた取組について</b></p> <p>① 家具の工芸も行っているが、外材を使っているのが現状。匠の技術の伝承を行っていく上で、将来的に地域材・国産材の広葉樹が使える山づくりの必要がある。</p> <p>② 木材需要を高めるため、公共施設の木造化を推進しているが、他の構造に比べてコスト高になっている。補助金について、例えば設計費用など、手厚い助成になればもっと木造化が進むと考える。</p>	<p>① 国有林では、多様な森林への誘導に取り組んでおり、自生した広葉樹を活かしながら、その山にあった山づくりを行っています。</p> <p>当該署の森林は広葉樹の生育に適しており、時間をかけ森林を広葉樹へ転換し多様な樹材種の供給源にしたいと考えます。</p> <p>② 木材を公共施設に使うことは非常にPRとなります。低コストで建築するための設計等のノウハウの支援はあるので利用していただきたいと考えます。</p> <p>公共施設に木材を使用すると、柱・横架材は特注となり価格が高くなりますが、一般に流通している木材を貼り合わせて大きな断面にし利用することで、費用が安くなった事例もあるので、設計段階で検討していただきたいと考えます。</p>
<p><b>3 有害鳥獣対策について</b></p> <p>① くくり罠でのシカの捕獲を行っているが、掛かったことを携帯へ知らせるシステムを試験している。安価に実施できるシステムを試験中で、得た情報があれば共有を行っていききたい。</p> <p>② ニホンジカ捕獲の覚書により、車両の通行が可能となるが、ツキノワグマの捕獲も適用されるのか教えていただきたい。</p>	<p>① 国有林でも無線を使った、くくり罠の感知システムを試行的に導入しています。新たな捕獲方法にも取り組んでいくところで、結果が出たら市町村、関係機関に情報提供を行っていききたいと考えます。</p> <p>② ツキノワグマについても、県が定めた特定鳥獣保護管理計画に基づく個体数管理として捕獲が必要な地域が定められており、その地域は捕獲対象地域となり覚書が適用されます。なお、捕獲頭数については、毎年度県が定めることとされているので、県や同ユニット内の市町村と調整いただくようお願いします。</p>

発 言 要 旨	回 答
<p>③ ニホンジカの駆除について、猟友会等により実施しているが、高齢化により捕獲後の埋設処理に苦慮している。</p> <p>処理に対応する焼却施設の設備整備などに助成があるのか教えていただきたい。</p>	<p>③ シカ処理等が困難な地形が多い森林におけるシカ被害対策では、捕獲した個体の処理等に伴う実施者の負担が大きいと認識しています。</p> <p>「鳥獣被害防止総合対策交付金」では、シカの焼却施設の整備について支援を行っています。</p> <p>※林野庁ホームページ 平成30年度林野庁予算概算決定事業 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進  <a href="http://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/attach/pdf/30kettei-6.pdf">http://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/attach/pdf/30kettei-6.pdf</a></p>
<p><b>4 国有林野の管理・利用について</b></p> <p>① 多くの観光客に併用林道を利用して自然休養林を利用させていただいている。</p> <p>最近、大きな岩の崩落による通行止めがあった。町としても、整備は行っていくつもりはあるが、上側での落石の危険性についての把握は困難で、今後の課題となっている。</p> <p>② 高地トレーニングエリアにおいて、冬期はスキー場施設の利用によって運営を行っているが、スキー人口も減少傾向にあり経営が不安定な状況。</p> <p>計画の見直しに対しては、柔軟な対応をお願いしたい。</p> <p>③ 国有林が、一般会計となり5年経ったが、それによる地元へのメリットを教えてください。</p> <p>④ 県立高等学校が町にあるが、生徒数の減少により廃校を危惧している。県唯一の林業科があり、存続していくために高性能機械等を体験したり、森林施業の計画を立てるフィールドとして国有林を活用し林業経営の後継者の育成を行っていただけると考えている。</p>	<p>① 併用林道は、休養林を利用する観光バス・一般車両の通行がありますが、事故はあってはならないので、まずはどのような対応が出来るか、町と署とよく連携を取り、相談しながら進めていきたいと考えます。</p> <p>② 当該スキー場の経営については、地元雇用等、地域振興の観点で大変重要と認識しています。今後とも貴市と相談しながら対応していきたいと考えます。</p> <p>③ 一般会計になったことで、計画した事業がしっかり実行できるようになるとともに、新しい技術をリスクを負って導入・実践できるようになりました。これらにより得られた成果は民有林に水平展開することや、民有林で発生した山地災害への技術的な支援を行うなど、積極的に地域貢献ができるようになりました。</p> <p>④ 国有林では請負事業により、伐採・造林一貫作業などの低コスト林業に結びつく取組を行っています。重機・車両類の運転は難しいですが、見学であれば可能ですので、請負事業体とも相談しながら進めていきたいと考えます。</p>
<p><b>5 その他について</b></p> <p>① 森林環境税については、既存の県税もあるので効率良く還元される税となるよう、また、交付内容により森林所有者への還元が後退し、森林管理に影響が無いようお願いする。</p> <p>森林環境税については期待しているが、使いやすい税にしていきたい。</p>	<p>① 各県と引き続き調整を進める中で、役割分担のもと、地域の実情に応じて十分効果的にそれぞれの税が活用できるよう調整していきたいと考えます。</p>

## 発 言 要 旨

### その他の発言

- ・ 5月に発生した山腹崩壊では、ヘリコプターによる調査等森林管理署に迅速に対応していただいた。
- ・ 少子化等により森林離れを感じており、子供達が山づくり、山に興味を持てる政策の展開をお願いする。
- ・ 歴史ある森林文化をしっかりと伝えていくことが林業振興にとって大切なことと考えているので、今後の国有林の利活用に対しても理解をお願いする。
- ・ 松くい虫対策について、伐倒駆除ほか色々な対策を行ってきたが、財政的にも厳しく方針転換を考えている。県税も含め、森林環境税が松くい虫対策に使用できるよう期待している。
- ・ 松くい虫対策について、標高800m付近から上部の松林を、徹底的に駆除を行い守っていきたいと考えている。森林環境税については、使い勝手の良い制度にしていただきたい。
- ・ 公共施設の木材利用の促進のため野外施設を5年前に建築したが、維持管理として5年毎に塗装経費が必要な状況で、塗装代金も高額のため今後維持できるか課題がある。